

絆 求 め て

1月 28日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



ブームと環境構成について

絆求めてNO14では、8月3日の「現職教員研修」講師の大豆生田啓友先生にお話しいただいた「サークルタイム」についてお伝えしました。その研修で、大豆生田先生より、サークルタイムとブームについての話がありました。今回はその事についてまとめてみました。(以下のラインボックス内の内容は、研修で大豆生田先生よりお伝えいただいたものです)

サークルタイムは、子ども達の「遊びのブーム」にもつながる。ぜひ活用して欲しい。園での活動では、ブームに乗れない子もいる。しかし、一人ブームの子も大事にしたい。一人ブームの子を、サークルタイムで皆に紹介したら、「それすごいね!」と皆に認められて、広がっていくことがあった。全員が同じブームに乗らなくてはいけないという事ではない。保育者には、一人ブームの子は皆と同じ事をしていない＝「やらない子」という見方がある。その子は発達障害であるとかではなく、一人一人の子を大切に育てあげること。それが他の子との関係につながっていき、保育者から「ブームに乗れない子」という見方もなくなっていく。

さて、ブームを生み出すことに大きく関係する要素として、子どもの主体的な学びを生み出す環境構成があるのではないのでしょうか。次に「環境構成」について少し触れてみたいと思います。

「幼稚園教育要領解説書」では、「教師主導の一方的な保育の展開ではなく、一人一人の幼児が教師の援助のもとで主体性を発揮して活動を展開していくことが出来るような幼児の立場にたった保育の展開が重要である」と説明されています。つまり、①教師は、園児の活動が生まれやすいように、意図をもって環境を構成する役割を担っている。②幼児なりの興味・関心、願いや期待など、内発的動機にともなう活動を受け止めた保育の工夫が必要である。という事です。

8月の研修で、大豆生田先生は環境構成に関わり次のように話されています。

園の環境をみれば園の保育の質が分かる。園の評価は環境づくりでされる。園には子ども達の興味・関心を引き出す環境があることが大切。1年間同じ環境しかないとする、それは子ども達にとって豊かな環境とは言えない。環境づくりのためには、コーナーをつくるのが大切。コーナーをつくることで一斉にやっていたことを子ども達の興味・関心で活動できる場に変更できる。例えば、折り紙をやる場合でも、一斉に折り紙をするのではなく、コーナーをつくり、子どもに具体的な活動を選択させる。この工夫が、主体的活動につながる。

以下に子どもの主体的な学びを支える環境づくりで大切にしたい要素をまとめてみましたので参考にしてください。

①安心感・安定感が得られるような環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの自分を出せる保育者との信頼関係 ・温かい雰囲気、居場所づくり ・自由に触れることのできる場づくり
②興味や関心を持ち、思わずかかわりたくなる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・時期に応じた絵本や図鑑、壁面への掲示の工夫 ・興味や欲求の刺激となる環境(材料、用具…)
③試行錯誤を繰り返すことのできる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくり取り組める時間や場所、材料、用具 ・一緒に試行錯誤を繰り返したり、関わったりしてくれる友達の存在 ・見守ったり、揺さぶったり、時にアドバイスしたりする保育者の存在

園での活動には、時間的な制約があることも事実です。しかし、一斉授業の形態を工夫したり、遊びの時間を多くしたりしていくことで、解決できる課題もあるように思います。私たちの柔軟な発想と対応を大切に、園内環境の工夫にチャレンジしたいですね。(専門員)